

日本女性会議2017とまこまいに参加しました

男女共同参画市民研修「日本女性会議2017とまこまい」(平成29年10月13日(金)~14日(土))に2人が参加しました。研修の中で全国の皆さんと交流しながら、女性の社会的地位の向上や男女共同参画の実践・実現について学んだことを報告します。

報告者 志岐玲子さん

●研修概要

記念講演で女優・渡辺えりさんは、男性中心の劇作家の世界で、どれほど厳しい体験をしたかを語られた。

武川恵子内閣府男女共同参画局長が基調報告の中で、「世界各国でペナルティのついた取り組みが効果をあげている」と述べられた。議員についても「クォータ制」の導入によって女性議員が増えている。

街づくりや災害時の避難所運営に女性の視点が必要だといわれている。日常の暮らしの中に、女性の視点を取り入れた取り組みが当たり前になされている状況があつてこそ、いざというときにもその本領が発揮される。私たち自身ももっと積極的にさまざまな場に参加していくことが課題だと思つた。

今、私は市内で、仲間とともに地域の子どもの学習支援に取り組み始めた。2日目の第5分科会「子

どもの貧困・貧困に悩む子どもたち皆でなくそう貧困の連鎖を」シンポジウムに参加し、居場所・学習・食それぞれの観点からの取り組み報告を聴いた。そこで、子どもたちが安心して過ごし、生きる力を身につけ健やかに成長していくことができる環境づくりのノウハウなどを学ぶことができた。

●感想・今後の活動

特別揮毫・講演で、書家・金澤翔子さんの揮毫の後、母・金澤泰子さん(東京藝術大学評議員、日本福祉大学客員教授)が「ちがいはかけがえない個性」ダウン症の娘と共に生きて」と題して講演された。「翔子が一人暮らしを始めてから、『障がい』があるからできないと、親の独善で決め付けてきたことがたくさんあることに気づいた」と述べられたことが印象に残った。地域活動の中で、子どもや障がい者、高齢者などさまざまな人と接するとき、それぞれの個性を生かし自立を支援していくことが課題なのだと思ふことができた。

報告者 早瀬ひろ子さん

●研修概要

このたび、第34回日本女性会議に参加してきました。イランカラプテ(Aイヌ語で「こんにちは」を意味

するおもてなしの言葉)に迎えられた「日本女性会議2017とまこまい」のテーマは「北の大地で語ろうこれからの未来の一步を」でした。参加者2000人。合言葉は「市民・団体の力+企業の手+行政の力+オールとまこまい」。800人のボランティアがオレンジ色に身を包み、道案内や会場案内その他の役割をテキパキとこなされている姿に、大会を成功させようという意気込みと熱意を感じました。

さて、1日目の特別揮毫・講演では、ダウン症という障がいを持って生まれながら、現在書家として活躍の金澤翔子さんが壇上で『共に生きる』と揮毫され、お母様の泰子さんから今日に至るまでの壮絶なお話を伺いました。マイケルジャクソンが大好きで、ちょっとお茶目な翔子さんは、周りの人たちに優しい光と愛を注ぐ女性に成長されました。30歳の時に一人暮らしを始め、食事、買い物、身のまわりの事、そしてお金の管理までご自分でされているそうです。NHK大河ドラマ「平清盛」の題字を書かれた翔子さんご紹介すれば、彼女を身近に感じていただけるのではないかと思います。違いはかけがえない個性。生きてさえいれば絶望は無い。障がいとは何か、違いとは何かを考えさせられました。

2日目は分科会のテーマの中から

「教育」を選びました。パネリストの一人である加藤久美子さんの四男が、骨形成不全の症状で障がいがあるとわかり、手術を繰り返すといった怒涛の日々を送られる中、子どもの成長と共に色々な問題に直面されたそうです。親子で問題に取り組み克服された加藤さんは、「個性や多様性が認められる世の中になってほしい。障がいも左利きと同じように個性です」と結ばれました。

●感想・今後の活動

障がいのある人やその家族が、我慢や、微妙な空気を読んで生活することなく、一人一人の個性として認められ、尊重される社会になることを私も願っています。貴重な機会を与えていただき本当にありがとうございました。



早瀬ひろ子さん 志岐玲子さん

●問い合わせ先

人権男女共同参画課

☎(580)1840